

東洋産業だより

Vol.249

冬がくる前に排水チェック
してみませんか？

朝晩と、少し肌寒い日が増えてきましたね。10月初旬は七十二候の第四十七候「蟄虫坏戸」にあたります。「むしかくれてとをふさぐ」、そろそろ野外の生き物たちも気温が下がって冬越しの準備に入る時期です。

こうして虫が減る冬ですが、一方で排水トラブルが増える季節というのをご存知ですか？これは低い温度だと排水に流す様々な汚れ、特に油が固まりやすいためだといわれています。油を使用しないところでも、石鹸、私たちの皮脂、そのほか様々なものに油分は含まれており、汚れが排水管の中で冷やされて固まったり、引っかかたりして流れが悪くなりやすく、そのまま放っておくと詰まったり、逆流したり、変なところで漏れたりと大惨事を引き起こしてしまうこともあります。

工場や店舗では排水溝や排水管が長くなりがちです。緩い勾配で水流が穏やかになると、排水管の曲がり角（L字、エルボーなど）や排水トラップの場所では特にトラブルが起こりやすくなります。

日常清掃としては、60℃くらいのお湯と洗剤を混ぜたものを時々勢いよく流してやることで、こびりついた汚れや油脂の洗い流しができ、当たれば害虫も死滅するので有効です。熱湯だと設備を痛めてしまうので、熱湯に水道水を半々で混ぜたものを使用するのがよいでしょう。

排水のつまりは突然起こる場合がありますが、予兆として流れにくい、嫌なにおいがする、排水口からときどきゴポツとにごった音がする、などが挙げられます。どれも気づきにくいかもしれませんが、一つでも



図1：排水管洗浄前後！

図2：点検で発見！
排水管の割れ

当てはまったら要注意です。逆に流れが突然よくなった、というのも時に困りもので、詰まった部分が抜けたのかもしれませんが、排水管が割れたり外れたのかもしれませんが。また長く使っている排水管は構造のゆがみで「逆勾配」になったり凹みができたりして常に水が溜まっていることなどもあります。こういった異常に気づくには、おかしなところがないか気にしながらのメンテナンスに加え、数年に一度、予算と時間をとって外部業者に清掃や排水管内の調査を委託するのもいい方法です。

困ったときの相談相手を決めておくことは重要です。日常の排水溝や排水管洗浄のタイミング、方法、洗剤、プロの清掃を聞いてみたいなどご相談がございましたらお気軽に弊社までお問い合わせください！

今月の豆知識

鳴く虫のフシギ、スズムシの翅は何枚？

秋も深まって肌寒い季節がやってきましたが、草むらの方から虫の鳴き声はまだ聞こえていますね。

虫の鳴き声といっても、虫は鳥や私たちのように口から音を出して鳴いているわけではありません。ご存知の方も多いと思いますが、翅をこすり合わせて音を出しているのです。ではなぜこのような音を出すのでしょうか？これは私たちの耳を楽ませるためではなく、オスがメスにプロポーズをしている音です。

スズムシはこのプロポーズのために、ある能力を犠牲にしました。それは「飛ぶ」能力です。というのも、スズムシは羽化して成虫になった時は翅が4枚あります。ところが、メスにアプローチするためにオスは後翅を落として前翅を楽器のようにして鳴き始めます。それでは

メスは？メスも同じく翅を落とすのですが、メスは鳴かない代わりに飛ぶための筋肉を卵のエネルギーにするためです。このため、スズムシはオスもメスも翅が2枚しかないように見え、一生飛ぶことはできないのです。

プロポーズのために鳴く虫たちですが、ハワイ諸島のある種のコオロギは逆に鳴けなくなってしまったものがあります。これは島に持ち込まれたコオロギのプロポーズを聞きつけて寄生して殺してしまう寄生バエに対抗するための選択だといわれます。鳴くとモテるけれど、鳴いたら殺されてしまうかもしれない、それならほかの命知らずのオスが鳴いてメスを集めたところでそっとメスをさらっていく、という戦略に進化したそうです。

鳴く虫のフシギ、いつまでも楽しめるといいですね。